



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第17巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の研究各論 第2章 : 生業活動の組織 『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1962-04-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77584
Type	manuscript
File Information	I020_0117.pdf



17



HANKYU

MA3

29

NOTE BOOK

國民社會の研究
第十七卷

昭和十七年十一月二十八日

KYOYEI

17

目次

一、都市構造の概念と見	1
一、都市は其都市史の都市ではない。	3
一、市町村合併と交通機関	5
一、隣郡構成市町村の人口、民族構成	10
一、日本における産業と人口移動の別如何	15
一、支配の限界	16
一、都市組織の形成	21

社會構造の概観と私見

[illegible]

中一祝解

まのねはかくの如き水な精の琥珀

のふは書版社庫に存ありあり印

型の社厚集團及び社厚関係ない

新法は統一を基下の社会の統一を

と
構
生
を
明
か
し
て
お
の
ち
に
あ
ら
わ
せ
る

何为中心的
下
基础的
下
d
d

1. 研究の目的
 2. 研究の意義
 3. 研究の範囲
 4. 研究の方法
 5. 研究の結果
 6. 研究の結論
 7. 研究の展望

Ed

日本製紙におけり村落の改善構造を
私は次の様に説明した。

都市は其都市丈の都市ではない。

口境の日本の都市は大中小の配
列の如く枝狀の配列の上に上下
の地位をもち一定の階層をもち
階層をもちいる。この階層の中に
總ての日本の都市は秩序よく
階層をついていゝ。どの都市も
その都市階の都市では決りし
てない。

上級の都市の機能停止はその
同級圏内の下級の都市や村落
の機能をまいせしめる。

口境の大都市が總合して一つの

一大都市を形作りつゝもとてゐる。
その名は日本都下ある。その都は
は東京にある。

一月四日

市町村合併と交通機関

都市の発展は多様な官僚制の合現化
のため、口民を迷惑せしめつゝある。これは
都市の発展を阻害の都市の項に論じ
たが、この見方は誤つてはいない。又官
僚自身もそう思つてゐる。然しに
この官僚の合併によつて口民は一層困
難な生活に近付くと思はれた。市町村
の合併によつて口民は都市の発展によつて
幸福を増しつゝある。それゆゑには
都市の発展を阻害した交通機関の
整備が現はれて来た。かくして
都市の発展中に市町村の合併は土木

やば郷

や建設に關する。大規模の工事をフンタ
ンに整備し、山を削り道を作り
物をかけ、その為の用具はスハラ、ク
活用し、ついに、一夜にして山を平
くして見せかえ、ばかりの出来た。
一日の内に完成し、駐在任事、同様に
行つて、いよいよ大きなタンポカーや工作
カーは、何千人何百人の人力を、即座に
使ひしといふ。

四王の

役易のあゝ田舎から、村のぼつれな下
米道路を作より、は、簡易である。

村人は、自家の作業団の耕作車を用い

と自らより彼場に行く事も又ハスをつ
かつて一寸した申すや都布々やうにも客の
しきもとなつて。

口智と地着きによつて金口の町村の
どんな片隅にもよい交通路が生じ大さ
なコンクリートのわが屋には暖冬に暖房
を暮すはなからいふ。田舎を治るす
て他の光が俄かひさしとて来たがに
んえん。

この如き幸福は二に交通路の整備
によるものである。町村は合併して一町
に大さな町村や彼場が出来る事。

と活用する。村人は不便な又通路のま
は苦勞が增すばかりである。と合併運
動の足には少し懸念してゐる。それ
に合併は官僚制の暴カになると考へ
るものがある。

交通路の不便は俄かの成長があるが
平和されていなり減が反射するかも知
れなうか。

然し交通路の俄かの成長は町村合併か
のつたからこう容易であつてあるかも知
れなう。合併なくともなれば出来なかも知れぬと

いふべきである。然し合併して道路を整備

又旧町村のまゝで口當で行やうと出来なかも知れぬ。然し合併に違つていふ出来なかも知れぬ。かゝる

✕そこは政治と民意の微妙な関係である。
先づ先の見通して先政家、民の互益を
抑へ抑へる方針を定むるのはやはり
さくすくとして先の手がかりをいふなり
それを先づに説明して民意を導いて実施
する事である。その事は書經の中
に見え、東洋の王道の教の最初と
かれています。それは治世の治世について同
様の事が述べられていた。

一書
すゝめが望むべき順序である。これは
然である。✕

(十二カ十二の病を治す)

(48p)
* 五ヶ年文に依りて、同論文はソ連邦連邦
共産党綱領(共産)綱領、第五卷
第六号(欧亜)部を發行1961.12.
P. 14)に依りて。

五ヶ年文の足し同は「現代ソ連邦におけるわが
民族の民族社会学的研究」

ソ連邦構成共和国の人口民族構成 *
(総人口に対する%) 1959

ロシア共和国 総人口: 117,534,600

ロシア人 83.2%

タタール人 3.5%

ウクライナ人 2.9%

チェコ人 1.2%

モルドヴァ人 1.0%

バシキール人 0.8%

エヴザン 0.7%

以上総人口に對して 0.5%の民族、4,000,000%

民族 8,00.1%の民族 15-

ウクライナ共和国

総人口 41,869,000

ウクライナ人 76.1%

ロシア人 17.7%

エヴザン 2.0%

ポーランド人 0.9%

白ロシア人 0.7%

モルドヴァ人 0.6%

ポーランド人 0.5%

ハンガリー人 0.6%

以上総人口に對して 0.2%の民族 2

白ロシア共和国

総人口 8,055,000人 に對して

白ロシア人	80.0 %
ロシア人	9.1 "
ポーランド人	6.7 "
ウクライナ人	1.9 "
ユダヤ人	1.9 "

ウズベク共和国

総人口 8,106,000人

ウズベク人	62.0 %
ロシア人	13.6 "
タタール人	5.5 "
カザフ人	4.1 "
トルクメニ人	
カラカルパク人	2.1 %
朝鮮人	1.7 "
ユダヤ人	1.2 "

カザフ共和国

総人口 9,310,000人

カザフ人	29.6 %
ロシア人	43.1 "
ウクライナ人	8.9 "

4912人	2.1
ウズベク人	1.8
白ロシア人	1.2
ロシア下総人口に対して0.8%民族 4	

グルジア共和国

総人口 4,044,000人

グルジア人	63.3%
アルメニア人	11.0%
ロシア人	10.8%
アゼルバイジャン人	3.9%
オセチヤ人	3.5%
コサ人	1.3%

ロシア下総人口に対して1.3%以下民族 4

アゼルバイジャン共和国

総人口 3,698,000人

アゼルバイジャン人	67.1%
ロシア人	13.9
アルメニア人	12.0
レスギヤン人	2.9

リビア共和国

総人口 2,885,000人

リスニア人	79.3%
ロニア人	8.5
ホイランド人	8.5
ロニア人	1.1
エタヤ人	0.9
ウクワイヤ人	0.7

モルダヴィア共和国
総人口 2,885,000人

モルダヴィア人	65.4
ウクワイヤ人	14.6
ジニア人	10.2
オカウズ人	3.3
エタヤ人	3.3
ブルガル人	2.1

キルギス共和国
総人口

キルギス人	40.5
ロニア人	30.2
ウズベク	10.6
ウクワイヤ人	6.6
タタール人	2.7

1.0%以下の民族 3

タジク共和国

総人口 1,980,000人

タジク人 53.1% ウズベク人 2.3%
ロシア人 13.3% 中央アジア人 2.1%

アゼルバイジャン共和国

総人口 1,763,000人

アゼルバイジャン人 88.0% アブハズ人 6.1%
ロシア人 3.2% ウルド人 1.5%

トルクメニスタン共和国

総人口 1,516,000

トルクメニスタン人 60.9%
ロシア人 17.3%
ウズベク人 8.3%
カザフ人 4.6%

イラン共和国

総人口

イラン人

トルクメニスタン

日本における官吏と公務員の別は何
官吏と公務員の別は世界一般に
然るのか。本質的に相違があるのか
官制における取組みの別は否、とも
イデオロギーとは同質のものと思はれ
し故に優位体系の構造様式も同形
であると思はれるか如何。(中央公務
員会に参考文があるらしい。又文部二
月号には官制と政院のつながりが扱
われている)

支配の限界

支配は抵抗の無いところには有
得ない。抵抗を以て対峙して互に
を押し合はうと互に支配は
あふ。抵抗を威嚇する人に社
し支配の責任が自らを免れず
る場合は支配ではない。支配
される者を有難く思ふ感謝
すも命令する。教団の指示
は任意的に有り難い仰せて感
謝があるばかりである。
凡そ甲が乙に行ふの指示もか
へその指示に押し合はうと互に
16

と、
 一、
 感に
 元は
 次
 の
 時
 だ
 と
 考
 へ
 ら
 れ
 ぬ
 。

(その指が甲自身のため~~に~~望ま
 しいか、このために望ましいか、西方
 のために望ましいか、^{西方}西方
 甲の判断によるか、^{西方}西方
 によるか、^{西方}西方

有積少成多

愛の圖は見たことある

2.
各局に
(各社別) 従ふ
に
従ふ
も、各
社に
知の
方
知
れ
し
て
従
や
の
同
他
に
見
る
事

3.
 7
 2
 8
 11
 6
 5
 從
 8
 6
 9
 畏
 服
 2
 從
 8
 8

4. 少く

抵抗したから

a. 特殊な事情がある
b. 不安定な状況
c. 不平を吐いたから

5. 強制されて

a. 言語的の強制

b. 暴力での強制
c. 服従は不可故に

6. 屈服

a. 暴力の連鎖

b. 抵抗力の去脱

統治の円滑化は2, 3, 4, 5, 6が一般に

大衆の態度、5, 6は軽微な

法令に対して国民大衆は結果的に

大部分が常に従う。従うは軽微な

毛視して大なる影響をいほの敷
故に最南部に大ターミナル通り（幸
成されど）が一般である。

總發行所
圖書
物資
聯合
社

上破毀之水で、死
(立)て去るべし。

都ては、
二は
此に
解す

オ、カ、
法屋は必ず通さるゝ、実行は
どの立派は他には暗黙の中に

政府の民の徴税を
プリンターに

よ、乙、不、い、れ、の、る、西、例、作、あ、の、大、戦、走、馬

のり
何
竹
一
七
あ
か
あ
あ
あ

政府と国民が一体の感にかゝる。実上

生ずていたのである。持ちつていふ事には
代には改竄はつた民のほかに雲の上に
あゝそれとあるお世が知れぬと民と
の別はすぐ手近かに降ります。

結市組織の類型

都市の大半は、今日の地域組織と
統治の組織と相通するものは少
く、本居支店代理店日組織
に及ぶ、かれは経済活動が中心に
なつてゐる組織を適用してゐる
又昨ことが、宗教的団体の組
織、文化普及運動にもこの組織
が用ゐられてゐる。

凡そ一般に人間の活動が一つの地
域に集中するに留まらず、近き他の
地域に波及するときは常に
この組織が用ゐられると考へられ
る。

この組織は人同士の^部の波及して行く
基本的形式と見ても可い。
この種活動が現はれ、その中には
首都におかれ、首都より全国
にもれなくこの形式による波及の路
線が用意されていゝのである。

この原理による活動の主要ものは
次の如し。

一、経済組織

一、商業組織

一、廣告組織

一、宣傳組織

23

一、布政組織、宗教活動
一、政府組織、財政
一、教育組織、文化
一、國防組織、軍事

(二月三日)